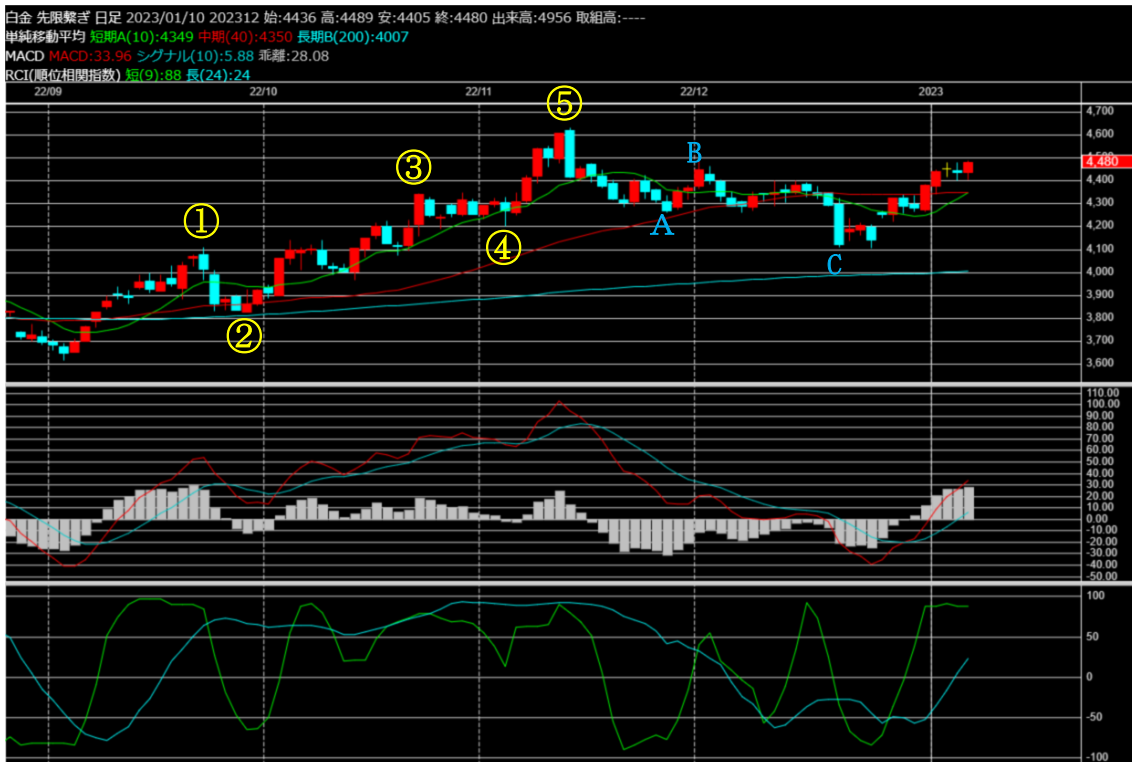


< 白金標準先物、円高・ドル安の綱引きで高値修正に注意・・・ >



(出所：オアシス)

白金標準先物は、12月23日に4105円で下げ止まると黒田日銀総裁が「出口の一步ということでは全くない」と発言し、為替市場では円安・ドル高の動きを見せたと、中国のゼロコロナ政策の解除を受けた中国経済の回復期待から白金標準先物は4300円を回復している。特に中国のゼロコロナ政策の緩和に伴う感染拡大では、イタリア保健省が中国からの渡航者が従来のオミクロン株の感染を示している事を受け、リスク緩和の動きが強まると4400円を回復し、2023年の新年ではドイツCPIが前年同月比で9.6%、8月以来の小幅な伸びを示し、ユーロ高・ドル安を背景として買われている。

特に週末の雇用統計では、非農業部門就業者数が22.3万人増となり、失業率も3.5%と雇用情勢は依然とひっ迫感を示したが、平均時給が前月の4.8%から5.1%へ上方修正されたが、今月は4.6%と大幅な低下を見せるなどインフレ抑制を好感した金利低下のドル安で1107ドルまでNY白金は買われている。しかし円建て価格である白金標準先物は、円高を受けて前回の高値4489円で抑えられている。特に12日のCPIの発表では11月、12月共にCPIの低下を受けた円高の動きでピークアウトを見せており、今週も注意した方が良くと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDが上昇しながら、シグナルも上昇しており、RCIでも短期が+88%を維持しながら、長期は上昇しており強気を示唆している。ただ昨年9月も同様な動きを示しており、逆張りの動きに注意したいと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2023 年 1 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 1 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>